

## 2019年度研究プロジェクト報告

### ことばの力—キリスト教の視点から

<プロジェクトメンバー>

打樋 啓史（代表、センター長、社会学部教授）

加納 和寛（センター副長、神学部准教授）

橋本 祐樹（主任研究員、神学部助教）

梶原 直美（主任研究員、教育学部准教授）

赤江 達也（社会学部教授）

Timothy O. Benedict（社会学部助教）

山 泰幸（人間福祉学部教授）

近年、インターネットやSNSの発達によって、人々のコミュニケーションが迅速かつ便利になった半面、そこで用いられる「ことば」の希薄化や表層化が指摘され、意思疎通における様々な問題が顕在化している。このような時代に、人々が互いを理解し合うための言葉、閉塞感のなかで希望を共有できる言葉を見出すことが、大きな課題になっている。

キリスト教は、聖書を正典とする「ことばの宗教」である。その前身となるユダヤ教では「ことば」（ダバール）は単なる記号ではなく、できごとを起こす動的な力として理解されるが、キリスト教はその理解を継承しつつ、イエス・キリストを「神のことば」（ロゴス）として位置づけ、イエスの人格、教え、働き、死と復活に「神のことば」が決定的に啓示されたものととらえてきた。

今年度から始動した本プロジェクトの目的は、本質的に「ことばの宗教」であるキリスト教において、「神のことば」「神に関わることば」がどのように理解されてきたかを探ることである。それらの言葉は、どのような文脈でどう語

られたり記されたりしてきたのか。そのような言葉はコミュニケーションにおいてどのような役割を果たし、影響を与えてきたのか。これらの問いについて学際的共同研究を行ない、現代における「ことばをめぐる諸問題」にキリスト教の視点から何を発信できるかを探ることを目的として、上記のメンバーで2年間活動するものである。1年目の2019年度は以下の活動を行ってきた。

まず第1回研究会が5月8日（水）に開催され、メンバーからそれぞれの研究計画について報告された。打樋研究員は「礼拝と sacrament におけることば」、加納研究員は「エミール・ブルンナーにおけることば」、橋本研究員は「ディートリッヒ・ボンヘッファーにおけることば」、梶原研究員は「オリゲネスにおけることば」、赤江研究員は「内村鑑三におけることば」、ベネディクト研究員は「スピリチュアルケアにおけることば」、山研究員は「宗教儀礼におけることば」を基本テーマとして研究を進めることが確認された。

第2回研究会は7月24日（水）に開かれ、ベネディクト研究員が「浮動する言葉—ホスピスにおける『スピリチュアル』の使い方」というテーマで報告を行なった。「スピリチュアル」という言葉が、日本の社会、文化、宗教などでどのように使用されるかを概観した後、特にホスピスケアの文脈で「特定の宗教を超えた超越的なもの」、また医療関係者の中では「自分らしさ・自分を支えるもの」というより一般的な意味で用いられることから、特に日本では、この語が「宗教的領域と世俗的領域の間を浮動する」性質をもつことが指摘され、これを巡って議論が交わされた。

第3回研究会は、10月10日（木）に開催され、加納研究員が「『みことば』という『ことば』—キリスト教における『ことば』理解に関する予備的考察」というテーマで報告を行なった。教父、スコラ学、宗教改革者における「神のみことばの受肉」「内なる言葉」「みことばとしての聖書の言葉」などについての理解が概観された後、ドイツの現代神学者たちの言葉理解について考察された。特に「人間の言語能力と神の言葉との関わり」についてのエミール・ブルンナーとカール・バルトの論争について紹介され、これを巡って議論が交わされた。

第4回研究会は、11月21日（木）に、慶應義塾大学文学部准教授の赤江雄一氏

をお招きして、公開研究会として開催された。これまで中世イギリスの修道院での説教について重要な研究を展開してこられた赤江氏より、今回は「中世後期ヨーロッパにおける説教と教説—教皇ヨハネス22世と至福直観論争」というテーマでご報告いただいた。13世紀以降の説教研究史について概観された後、それらの研究成果に基づいて、14世紀後半に教皇ヨハネス22世が説教の中で展開した最後の審判に関する「異端」的教説を巡る論争について詳細な考察がなされ、質疑応答と活発な議論が行なわれた。

2019年度最後の第5回研究会は、2月12日（水）に開催され、メンバーからそれぞれの研究成果について簡潔に報告された後、次年度の研究計画について話し合われた。これに基づき、2020年度の研究会では、本プロジェクトの研究成果を刊行することを目標として定めた上で、まだ報告を行っていないメンバー全員が研究報告を行なっていくことになる。

(打樋 啓史・プロジェクト代表)